

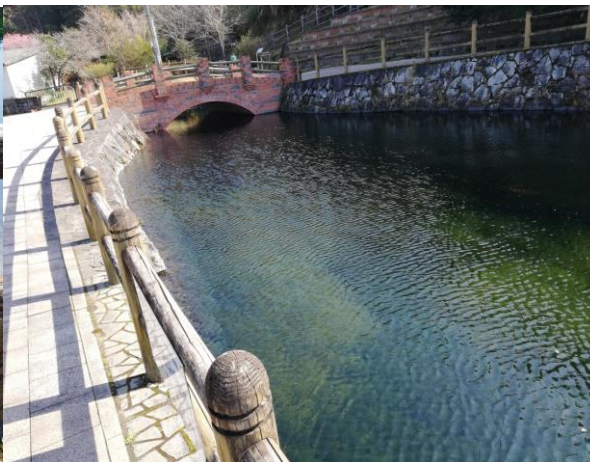
平成31年 3月5日

行政視察報告書	(会派の場合) 会派の名称		
	代表者氏名	⑩	
	(会派以外の場合) 議員氏名		
	待寺 真司	⑩	
参加議員	伊東 圭介	議員	議員
		議員	議員
		議員	議員
		議員	議員
視察先	(1) 鹿児島県湧水町		
	(2) 宮崎県えびの市		
	(3)		
視察目的 (項目)	(1) 空き家対策推進事業について		
	(2) 防災食育センター建設・運営事業について		
	(3)		
<p>【調査内容・概要】</p> <p>鹿児島県湧水町</p> <p>(1) 空き家対策推進事業について</p> <p>1月28日月曜日、新しく開設されたばかりの羽田空港新ターミナルより、空路鹿児島空港に向かいました。レンタカーを利用して、九州縦貫自動車道にのって、約30分で湧水町栗野に到着。研修開始時間まで町内を視察しました。湧水町は、鹿児島県の中央北端に位置し、北東部は宮崎県えびの市に隣接していて、古くは鉄道の要衝の地として栄えました。現在も九州縦貫道の栗野インターチェンジを有し、鹿児島市や宮崎市へは車で約1時間。熊本市へも約1時間半で行けるなど地理的・交通的条件に恵まれている町です。町の中央部を九州第二の河川である川内川が貫流していて、豊富な水源を利用して流域には肥沃な耕地があり、農業の町として町民の暮らしが営まれております。</p> <p>湧水町は、平成の大合併において、始良郡吉松町と栗野町が合併して、平成17年3月22日に町制が施行され誕生した町です。町内には竹中池やJR栗野駅隣には丸池湧水があり、豊富な水が地下から湧き出しています。町名の由来です。産業では水稲と畜産の複合経営をなす農業が主力ですが、担い手不足や米価の低迷、農畜産物の輸入自由化等により、所得が低迷して第1次産業の比率が低下していると</p>			

のことです。合併当時は12500人の人口規模でしたが、今現在（平成31年1月末日）は9378人にまで減少しており、国勢調査の度に1000人程度減少するので、年平均で200人も減っていることとなります。また高齢化率も40%を超える状況となり、人口減少に歯止めをかけるために研修内容である、空き家対策事業が推進されています。



👉 J R 栗野駅すぐの丸池湧水



👉 透明度抜群で水が澄んでいます👈



①空家・空地バンク制度

空家・空地の有効活用を通じて、定住促進及び地域の活性化を図るため、平成30年4月より運用が開始された新制度です。制度設計の背景には、高齢化の進展による管理不十分な空家の増加、調査により約700軒の空家を確認したこと、そして移住に関する相談や、空家物件の情報を求める相談が増加してきたことが挙げられます。鹿児島県始良市など先進地での研修を重ね、町内宅建業者との協議や、農業委員会への依頼を行うなどして制度設計を進め、平成30年3月に制度要綱を定め、宅建業者との協定書を締結して4月からスタートしました。

宅建業者との協定において、賃貸借についてはトラブルの発生が多く、取り扱っていないことから、空家・空地バンク制度では、売買の仲介のみを事業者へ依頼し（間接型）、賃貸借については町が紹介し物件所有者が対応する（直接型）こととしました。町では積極的に空家・空地情報を収集して、登録物件が出た時には可及的速やかに町ホームページ等の媒体を活用して、買い手とのマッチングが図られるよう努めています。町ホームページのトップにスライドショーで

表示しており、また物件ごとにPDFで詳細が分かり易く掲載されています。空家・空地の登録件数は、賃貸と売買と合わせて27件で、視察日現在において契約が成立したのは空家の賃貸が1件と空地の売買が1件の2件のみでした。今後の課題として、空家の登録は売買が圧倒的多数だが、受け手の方は賃貸借の希望が多くニーズとのマッチングができていない点の改善と、空家の劣化が激しいことがあります。

②空家リフォーム支援事業補助金

新制度を運用するにあたり、空家の劣化が激しかったり、水回り等の改修が必要な物件や、家財道具や仏壇などがそのまま放置されている空家が多いため、登録物件の増加を図り、供給を安定させるため、空家・空地バンク制度に登録された物件で、入居予定者が決定し賃貸借契約が締結された物件に対し、リフォームと家財道具の処理・撤去費を補助する制度です。バンク制度の運用開始と同時に補助制度もスタートしました。

補助対象者の要件として7項目定めがあり、入居予定者が住民登録を行うことや、リフォーム後3年間はバンク制度に登録すること、町内の施工業者を使うことなどがあります。リフォーム支援事業では、工事費用が30万円以上で、屋根・外壁・内装床・廊下・階段等の改修、増改築や間取りの変更、電気・給排水設備などの工事費が対象です。補助対象工事費の100分の30を乗じた額とし、上限50万円、対象物件1件に対して1回のみとなります。家財道具撤去及び処分費補助は、総経費5万円以上を対象に、総費用の100分の50を乗じた額で、上限は5万円、同じく対象物件1物件に対して1回のみ支給される補助制度です。視察日現在での申請件数は0件とのことで、周知に力をいれるため、案内チラシを納税書に同封したりと対応を図っております。

③その他の取り組み

お試し住まい制度の実施や、田舎暮らしを希望する都会暮らしの方がたと、定住移住促進策に取り組んでいます。地域おこし協力隊として3名の方が活動しており、町の情報発信や特産品の開発、ネットショップの開設、移住定住支援や空き家対策など幅広い分野で活躍されています。



📍 吉松庁舎隣にある総合体育館

バレーコートが3面十分取れる広さ

空き家対策計画は策定したものの、具体的な活動まで至っていない当町に対して、実践型の空き家対策、すなわち人口減少に歯止めをかけなくてはならない地方自治体の本気度を感じました。また吉松庁舎のある場所にはバレーボールコートが3面取れる体育館や図書館、河川の氾濫で浸水したために建て替えられた小学校が隣接していて、役場庁舎を中心に公共施設が集約されていると、こちらも今後の葉山のまちづくりの参考となるものでした。また研修に際して、丁寧なご説明いただいた企画課の福吉課長をはじめ、議会事務局永山局長、そして森山議長と吉永副議長にも最後までご同席いただき、様々な情報交換ができてとても有意義な研修となりました。誠にありがとうございました。余談ですが永山事務局長のご息は、母校のエンジの襷を掛けて、箱根路を3度走り抜けた、今後の活躍も期待される長距離ランナーです。

📍 吉松庁舎の隣接地に建設された小学校新校舎 とても瀟洒な造り



記 待寺 真司

宮崎県えびの市

(2) 防災食育センター建設・運営事業について

えびの市は、宮崎県、鹿児島県、熊本県の3県の県境にあり、九州縦貫自動車道は、えびの市で宮崎、鹿児島に分岐しており交通の要所となっています。市の南部には、霧島錦江湾国立公園を形成する霧島連山があり、主峰韓国岳をはじめ、白鳥山、栗野岳、飯盛山などが連なっており、その中央にはえびの高原が位置し、山裾は北に向かって穏やかな傾斜の大地をかたどっています。北は、九州山脈がそびえ、矢岳、国見、鉄山などの連山から急傾斜で南下しています。この両山系に囲まれた盆地には、霧島連山を源とする長江川、池島川と九州山脈を源とする川内川が合流し、鹿児島県薩摩川内市に至っています。河川の流域は、堆積物による肥沃な砂質土壌で農作物の栽培に適しており、コメは質・量ともに県内一を誇る「えびの米」の産地となっています。また、宮崎県で川が東シナ海に注いでいるのは、えびの市だけだそうです。人口は、19,000人、面積は、283km²の市です。

①えびの市防災食育センター建設の経緯について

旧学校給食センターは、昭和 39 年に開設し運営してきたが、築 40 年以上も経過し老朽化していたことから安全・安心な学校給食を提供するために建て替えが必要となり、平成 23 年度に建替更新計画である「えびの市学校給食センター建設基本計画」を策定し、文部科学省補助事業等を活用して平成 25 年度より運用開始の目標を掲げて、建設計画を進めてきました。

しかしながら、平成 24 年度に新給食センター施設の詳細設計を推進する中で、建設費にかかる高率補助が望める防衛省補助事業の活用の可能性が出てきたため、方針変更を行った。そこで防衛補助事業採択に不可欠な「まちづくり構想」を平成 27 年度に策定することに至ったそうです。その中で食育（給食設備）や防災学習等が実施できる複合施設と位置付けた建設計画を取りまとめ施設建設へ向けてスタートし、併せて「基本設計」も策定して平成 28 年度には、「実施設計」を策定したとのことでした。

平成 29 年 8 月に開催された市議会臨時議会において、契約承認議決後、建築・電気・機械・厨房機器の本契約を結び、運用開始に向けて平成 29 年 8 月 30 日から工事着工し、平成 30 年 8 月 10 日に工事が完了したそうです。8 月 21 日に落成式を行い試食会も実施し、8 月 27 日より市内各小中学校（小学校 4 校・中学校 3 校・小中一貫校 1 校）約 1600 食の給食の提供を開始したとのことでした。



📍 えびの市防災食育センター外観

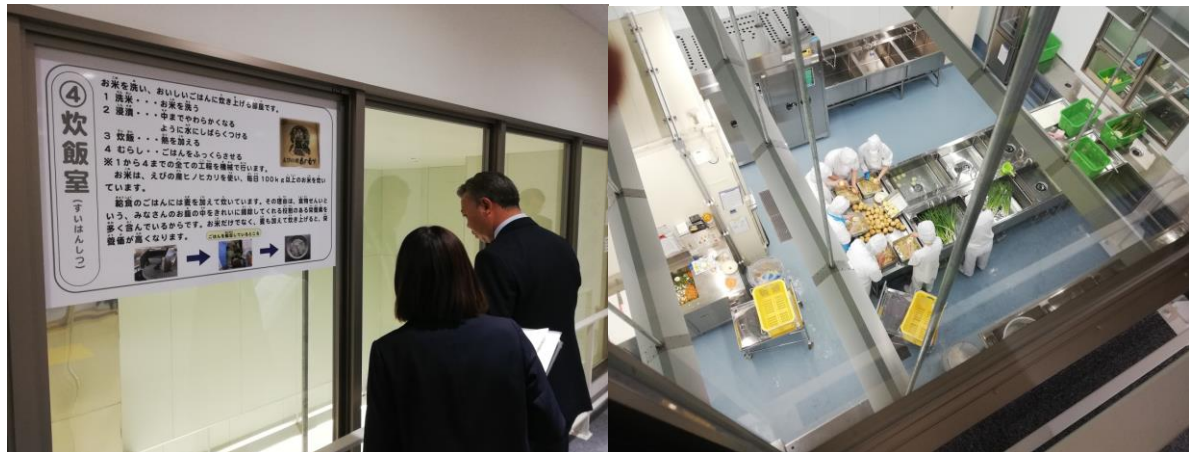
② えびの市防災食育センターの運営について

防災食育センターの運用については、平常時は、学校給食センターとして市内の小中学校に給食を提供するほか、実際に給食を作っている現場を見学するなど、食を学ぶ学習の場として、また、自衛隊や消防署及び消防団等の防災関係機関とも連携を図りながら、防災に関する会議や訓練、講習会、市民向けの防災講座などの活用を視野に入れて可能な限り有効利用していく計画になっているとのことでした。

なお、大規模な災害発生においては、支援物資の受け入れ、集積、仕分け、配送や応援部隊の受け入れなどの防災拠点施設としての活用と食糧等の備蓄機能施設

と応急給食（炊き出し）が提供できる応急給食機能施設としても活用することとしており、給食提供・食育学習・防災機能を兼ね備えた複合施設としての位置づけとなるとのことでした。

応急給食については、えびの市まちづくり構想で防災食育センターは、災害時に市内避難所等を対象に応急給食の提供を行うことができる機能を備えた施設として位置づけられており、大規模災害が発生した場合等の緊急時には、災害対策本部の指示を受け、配給のための計画を立て、調理配送の手配を行うことになっているとのことでした。



☞ 県の栄養教諭から説明を受ける

作業場も清潔感溢れている

えびの市防災食育センターの概要

敷地面積 : 4998.89 m²

施設面積 : 2129.36 m²

構造 : 鉄骨造 地上2階建て

調理能力 : 1日あたり1700食

施設の特徴 : 施設照明にはLED照明を採用し省電力化
自家発電設備により停電時にも稼働可能
備蓄倉庫を備え、保存が可能な食材を保管
地下ピットに防火水槽100tを装備

最終事業費 : 総額 1,554,060 千円 うち補助額 1,145,508 千円 (事務経費、付帯工事含)

※防衛施設周辺民生安定施設整備事業「まちづくり支援事業」を活用

実施状況 : 給食実施数 1,549人 (H30・5・1)

1食あたり 小学校219円 中学校259円

調理搬送業務として一括民間業者委託 調理員24人

入札により鹿児島市に本社のある伊田食品㈱に委託

配送車は、市費にて購入し、業者に無償貸付(3台体制)

概算事業費は、約8,000万円(市費2人 所長・係長)

(県費2人 栄養教諭・学校栄養職員)

アレルギー食は、20人、洗浄ラインも別になっている



👉 食材・資材等搬入用のプラットホーム 埃等を完全シャットアウト



👉 給食センター見学した児童生徒から たくさんのお礼状が届いています

記 伊東 圭介

